

茨城県立こども病院を受診された方へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名	術前 ERCP/EBS は先天性胆道拡張症の胆管形態評価を変える —戸谷分類再評価と切除範囲最適化への影響—
当院の研究責任者	茨城県立こども病院 小児消化器肝臓科 齊藤博大
他研究機関および 各施設の研究責任者	東京北医療センター 消化器科 岩田朋之 筑波大学附属病院 小児科 森田篤志 筑波大学附属病院 小児科 今川和生
本研究の目的	先天性胆道拡張症（CBD）は膵・胆管合流異常に伴う膵液胆道逆流により胆道癌発生リスクを有し、分流手術が必要となります。しかし胆道内圧上昇により胆管形態が修飾され、US や MRCP のみでは真の拡張範囲や膵・胆管合流部の同定が困難な症例が存在しています。本研究では、術前 ERCP および胆管ステント留置（EBS）による胆管減圧が胆管形態評価、戸谷分類、ならびに肝外胆管切除範囲の決定に与える影響を検討しています。
該当期間・対象者	2019 年 4 月～2026 年 3 月までに CBD と診断または疑われ、術前に ERCP または ERCP+EBS を施行した 11 例を後方視的に検討しました。EBS は胆管炎、胆管閉塞症状、膵炎合併例で胆道ドレナージが必要と判断された症例に実施しました。ERCP/EBS 前後で症状、胆管径、胆管形態、戸谷分類を比較し、術中所見および術後経過を評価しました。この研究のための受診は不要であり、追加で検査を行うこともありません。
研究の方法	電子診療録を用いて後方視的に解析
他機関への情報提供	ありません
個人情報の取り扱い	診療録に記載された診療情報（年齢、性別、診断、内視鏡画像、手術写真、治療経過など）を収集します。個人が特定されないよう匿名化して使用します。
利益相反	ありません
問い合わせ先	茨城県立こども病院 小児消化器肝臓科 齊藤博大
備考	